

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	2・3・4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多い。そのため、最初の授業でCM映像やアニメや絵本などを教材として使用し、学生の関心を高めた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。英語学科であることから、国際的な視野で日本の現状の課題を考えられるように教科書を活用した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータル成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の中で、提出されたミニレポートでは、ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていると思われる。ただし、試験の結果に関しては、上位者と下位者の2極化しており、自分の言葉で表現する力の差によるものと思われる。また、試験の不合格者は全て試験の欠席者であり、下位者においても基本的な知識の理解は達成したと判断している。授業の感想においては、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることでできる思考力が確認された。選択科目であり、テーマに関心の高い学生が集まったため意欲関心は高かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	試験結果から、一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題を歴史的、構造的、国際的への理解が不十分ではあった。しかしながら、志向判断や意欲関心については、達成されており、よって、おおむね内容的妥当性は認められる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生から「教科書は不要であった」という意見が出ていたが、原因は映像資料やデータ集を使用し、ミニレポートなどにも時間を割いたためかと思われる。しかしながら、教科書の内容は講義ごとに板書にて確認し、試験問題も教科書に準拠しているため今後も教科書は必要である。 思考を深めるために学生との意見交換は必要だが、今回は、おおむねミニレポートなどの文書でのやり取りになった。今後は、ワークショップ形式をもっと取り入れて、授業中での意見交換を活性化していく必要がある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	ジェンダー論については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。今後は、自分の言葉で人に伝える力を得ることが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の音楽と文化	2・3・4	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	配当学年は1年生から4年生であり、今期は履修生の全員が3年生であった。受講動機をみると、「単位数を確保する」の項目を選択した人数が一番が多かった。1年次のチャペルで讃美歌に親しんでいたため、讃美歌についての解説を授業の導入とした。さらに、クリスマスの讃美歌など、親しみのある曲のルーツを辿ることで、関心をもって西洋の音楽と文化について学べるよう、授業の内容を工夫した。また、音楽だけでなく、教会の映像を鑑賞することで、各時代の西洋の文化について理解を深めることが出来るよう準備した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は88点であり、再試対象は0名であった。ほぼ全員が理想的レベルに達した(理想的レベルは80以上に設定)。学生による授業評価において、到達度自己評価の平均値は5.0であったことから、教育目標は達成されたと考える。履修者のほとんどがキリスト教音楽を分化として認識し、新しい知識を獲得し、理解したことで、達成感に結びついたと考えられる。また、1年次のチャペルへの参加経験から、西洋の文化とキリスト教音楽の関係を実感できたことも達成された要因であると考ええる。今後は意欲関心をさらに高めるため、工夫をしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性:本科目は、学科横断的科目であり、一人ひとりが異文化に意欲関心を持って、基礎的知識を獲得し、音楽文化を多角的に理解し、総合的・分析的視点で学ぶことができるよう工夫しているため、内容的には妥当であると考ええる。②DP.行動目標からみでの内容的妥当性:昨年度に比べて、この講義に関心を持つ学生が増加し、達成度自己評価も比較的高かった。③まとめ:以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価における授業の質評価の平均値は、5.0点であり、授業の内容及び、ねらいがある程度学生に伝わったと考えられる。授業の最初に讃美歌を歌う時間を設け、音楽体験を取り入れることで、学生の参加意欲を高めた。アンケートの自由記述には、「讃美歌を歌うことが楽しかった」などの記述が見られ、音楽体験と授業における知識を一致させることができた。学生自身が自分なりの視点をもって授業に参加できるよう、授業のねらいを具体的に確認しながら進めた。そして授業の感想および、疑問に感じたことを書かせ、それらを差しさわりのない程度に公表し、全員で共有した。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	西洋音楽の歴史的概観を捉え、基礎知識の獲得については概ね達成できたと考える。昨年度課題とした、知識理解だけでなく、思考能力を養い、意欲態度の向上、および内容のさらなる充実を図っていききたい。西洋の音楽と文化について学習することによって、キリスト教音楽について理解を深め、音楽をとおして多種多様な文化、日本の音楽文化のあり方についても、発展的に学習できるよう、授業内容の充実を図りたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2・3・4	前期	選択	はい	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	講義を受ける学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多人数の講義だったがこれに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義の道は経験は多いけれど、今年度の達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。注意の仕方に工夫をくわえてきたが、睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	講義の道は経験は多いけれど、今年度の達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2・3・4	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の6割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「単位数確保」「関心のある内容」が主要な動機である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均点が4.2、中央値が4.5と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。単なるPowerpointやExcelの使い方で終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の4番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたので、今後もぜひ継続していきたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が4.5以上であることから、授業の進め方に問題はないと言える。平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。受講者数がすくなかったため、質問やわからない点に対する対応が十分にできた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れている。 * 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除していきたい。H30年度は、プログラミングエディタにおいて自動補完機能を導入し、入力時の負担を軽減できるようにした。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国の社会と文化	2・3・4	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生から4年生までの総合人間科学の授業であるので、授業の最初に中国への理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。 ②国際的視野に立って中国のことを幅広く学び、考えながら、異なる社会文化に触れていった。15回授業にそれぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。 ③中国社会文化に関心を向上させるために、10回目にレポートを提出してもらっていた。 ④学習状況を確認するために15回目にテストを行い、学生の意欲を高めるためである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したものは11名となった。 目標別にみると、知識理解に関しては学生による授業評価においては授業の課題以外に具体的に取り組んで学習はPCで調べたり、学生のそれぞれの関心問題ー中国の科学・教育などに関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。但し、授業の課題以外に学習していない理由については「なにをすればいいか分からなかった」、「特にすることがなかった」などの自己評価が示された。これは、勉強に積極的、自覚していなかったことが考えられる。次年度に向けて明確に指示・指導しなければならないと反省点が考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP, CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の科目であるが、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社会文化を修得して国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成の内容的には妥当であると考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料がなかったから、何をすればいいか分からなかった。特にすることがなかった、等が挙げられた。次年度に向けては、まず学習量・範囲をより具体的に示したうえで、学習時間・学習量・方法を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学にあたる本科目の位置づけから教養教育グローバル化社会に臨んでいる大学生としての教養を得ること。中国社会文化を学習すると同時に、関連する日本の社会文化などを理解してもらうこと。 以上から毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ること、復習課題を意識的に提出できるように、工夫を凝らしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	2・3・4	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	新しい経済学をゲーム理論の視点から提供すること
---	-------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績分布から判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ゲーム理論のアルゴリズムの訓練などは、講義中に何度も行った。知識理解はできていると考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義内容に関する映像資料(NHK オイコノミア)を見せ、イメージを伝えてから、具体的な内容に入った。今後も、同じ方向性で講義を行っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

理論偏重にならないように工夫したいと考えている。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	2・3・4	前期	選択	はい	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は興味関心によるもので、単位のための割合が多い例年とは傾向が異なる。ただし、授業は歴史的事例の検討が中心となるため、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全学科平均点75.5点。英語学科85.0点。 知識理解は十分満足できるレベルである。授業中の態度は良好であったが、欠席3回、遅刻1回を考慮しDP4は「やや達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の傾向からすると受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回の好成績の要因として、受講動機が興味関心にある点、授業中の態度が良好であることが挙げられる。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解をするよう促した点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージしにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テストにはただ資料やレジュメを見直すだけでは対応できず、授業中の解説等を聞き、ノートを取らないと対応できない問題も複数含まれていた。その上での好成績という結果は、学生がある程度授業に集中してくれたことが原因だろう。今後とも学生の興味関心を喚起できる授業を心がけたい。 次年度も今年度同様の理解度が期待できるとすれば(興味関心という動機づけが必要だと思われる)、現代社会の理解のスキルを向上させるというより応用的な側面にも働きかけたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人権と社会	2・3・4	前期	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①シラバスを一部修正した。前半では差別問題に関する部分を変更し、後半に男女共同参画の問題を取り上げるという改変を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①受講者は2名であり、共に好成績であった。しかし、少人数なので統計的な意味はない。 ②成績がよかったことは教育目標が達成されたと言うことができる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムの位置づけは妥当である。
--	--------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①特に問題はないと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①差別解消三法が行政的な実効性を持たなければならなくなってきたので、その内容を膨らませたシラバスの改訂を考えている。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度がかなり高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は、それ程行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様、できるだけ学生と会話する時間を取るよう努めた結果が、アンケート調査の点数に表れていると思われる。「授業の最初に自分たちの質問に一つ一つ答えてくれるのが嬉しい」というコメントに見られるように、学生の理解度の把握と、それへの適切な対応は今後も継続していきたいを考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価していると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習 I	2	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業である。1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、学生の達成度・満足度の高い授業であったと判断される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、「1年次に学んだ知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験する」という授業のデザイン・運営は、内容的妥当性が高かったと判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価され ると考えられる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本授業のデザイン・運営は高く評価 され、と考えられる。来年度も、受講生の数が本年度同様、多めになることが 予想されるので、授業のデザイン・運営をさらに工夫していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-rayディスクが使えず、急遽ちがう教材を使うことになった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。 ③小論文形式でふり返りの質を深めることとした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は80.5であり、ほぼ全体の平均値と変わらない。 ②到達度の自己評価は4.1～4.2であり、全項目の中央値は4.0であった。他の学科に比してポイントがかなり高い。同じ講義なので、この差は学生の熱意の表れと受け取っていいのだろうか。 ③予復習はそこそここなしているようである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程なので全員が免許状取得のために履修している。カリキュラム上問題はない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示さ さい。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均値が39～4.0であり、中央値は全て4.0であった。こちらも他学科より相当に高い。やはり熱意を持って受け止められていたこと だろうか。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①英語学科に関しては学生の満足度は高いが、「まあまあ」の学生が各項目に3名ずついる。これをさらに上げていく努力をしたい。 ②blue-rayディスクが使えるようにしてほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよく読んで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	言葉には力があるけれども「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など		授業後の振り返りシートの内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が15名中12名であり、80点以上は3名であった。また、到達度自己評価においては、すべての項目で4.0を超えており、特に「職業選択の参考」の項目の数値が最も高かった。したがって、態度、全体としては目標を達成したと判断した。ただし、知識理解、態度においては、各授業時のノート、振り返りシートなどの記述内容から「やや達成」と判断した。				

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、英語科教諭をめざす学生にとって、学級経営や生徒指導、道徳教育と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目「職業選択の参考になった」の数値が高い点や自由記述の内容などから、内容的な妥当性は高いと判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目の(3)(4)(5)の評価が比較的高かったが、特に(5)の学生からの質問に答えたり、考察に助言をしたりする点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	将来、中学・高校の学級担任をする可能性のある学生であるため、学級経営との関連や教科指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように進めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体の内容に触れ、繰り返しながら取り扱った内容もあり、指導案作成などの演習に費やす時間が十分とはいい難かった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても工夫改善の余地があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②その分理論的な部分を精選した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均は85.8であり、全体の平均84.55より1ポイントほど高い。4学科で最も高いが有意差があるわけではない。 ②到達度自己評価は各項目において平均が3.6～3.8であり、中央値は3.0～4.0であった。1～2/15程度達成感の少ない学生がいるので、なんとかしなくてはならないと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程なので問題はない。
--	----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均が3.7～3.9であり、中央値4.0であった。学生は講義の質にまずまずの満足をしてはいると記入しているが1～2／15程度は不満を 持っている。なので、満足のいく講義になっていないと判断する。おそらく授業研究の内容にまだ課題があるのではないだろうか。ただ、一度やらせるだけではイベン トになってしまうので、注意事項を一言入れれば学生を褒める時間がないし、褒めるのも難しい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①授業研究は回ごとにステップアップできるように講義の設計を改善したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	前年度までと同様、「英語の教え方」そのものについての知識はほとんどない状態だったので、そこに特化した授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの「知識理解」「態度」に関する部分は高い評価を得ており、そのことは自由記述でも裏付けられているので、「達成された」という判断に至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート、そして自由記述の内容からも、学生の満足度が高い授業であると判断されるので、内容的妥当性は高いと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については特に問題ないと思われる。「たくさんの指導法を学 ぶことができてよかった」という自由記述が多かったので、この方式は 今後も継続していきたいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今学期で4回目の担当をした授業であったが、授業のデザイン・運営は、 これまでよりもよりうまくいったと考えている。授業のデザイン・運 営のさらなる向上をめざしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅴ	4	前期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教育実習に行く直前の授業であるため、現場で役に立つ情報の提供と、教案作成、教材開発、模擬授業等を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の極めて高い授業であったと判断される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、教職課程のほぼ最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。本授業を担当するのは初めてだったのだが、「担当教員への意見」で記されている学生のコメントは、肯定的なものであった。これを励みに、さらなる授業の向上を目指したいと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今後は、受講生が本年度よりも多くなることが予想されるが、学生と対話する時間をしっかりと確保できるよう努めていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、教職課程のほぼ最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。今後も、学生と対話する時間をしっかりと確保することに努めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	英語学科平均65.8点(昨年度平均点74.1点)。全学科平均点72.4点。秀0人、優2、良4、可5、不可2(昨年度0人)。 平均点が例年に比較して低く、成績上位層が非常に少ない。教材分析の深さや発問・指示の根拠など思考判断が要求される部分が弱いものが多かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実践(4)自分で道徳の授業を組 み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 きちんと約束事を守った指導案というレベルに達していない者が複数いたこと。最低基準には達しているが、より深い教材研究や授業方法への工夫などの点で課題 が多い者がほとんどであった。昨年度クリアできた基準が今年はできなかったのか定かではないが、次年度は本年度の反省に基づいた指導を行いたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度は(1)最低基準である学習指導案の形式や内容を守ることができない者が複数いた(2)より深い教材分析や具体的な指導場面をイメージした指導過程の展 開が弱かったという問題があり、まず(1)を全員がクリアできることが第一の課題である。その上で、自分が実際に授業を行う姿をイメージできるような指導案づくり ができる工夫を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「必修教科」60%「資格に必要」40%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関するを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③今年度は生徒が授業に参加するための課題等を与えることなく生徒の自主性に任した対応であったため学習量がほとんどない状況であった。次年度の反省として次の授業に向けての準備、授業後の振り返り等を充実させたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生15名中「かなり」「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、9名、1名」「6名、8名、1名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、8名、2名」「6名、8名、1名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「3名、10名、2名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「6名、7名、2名」「5名、7名、3名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ「4名、10名、1名」「6名、6名、3名」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足な結果となった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたとと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置づけから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「必修教科」9名60%「資格に必要」40%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、少数ではあるが、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見は「実体験話などがあり、すぐわかりやすくおもしろかったというものであった。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については今年度予習や課題を与えることなく自主性に任せた。結果としては十分なものとは言えず来年度に向けての反省となった。 ④情報機器や図書館の活用もなかった点についても反省するものであった。来年度は学生が主体的に活動するような授業も考えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度は学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion I	2	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This year was our second time to use the Global Connections textbook for this class, and it seems to be working well. As well as the coursework from the textbook, we heavily supplemented using online activities on our Moodle CMS plus our own activities. Once again, we used the system for students to learn 4 vocabulary lists of approximately 1200 words each, and these were tested on during the semester. We also used a lot of presentations in class to give the students more chance to engage in Active Learning.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 1. Vocab Test scores (15%), mid- and end-of-semester projects (15% each), class performance (25%), portfolio (10%), self evaluation (10%), and progress in e-learning (10%). The average grade for the semester was 85.37%, with a range of 73% to 100%. This semester there were 6 students from B class included, so the scores were higher than average. All of the students completed the e-Learning section of the course.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	This class continued the steady improvement of last year, helped a lot by the supplementary materials we used. Vocabulary skills continue to need work.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Once this semester is complete, we may reassess whether we want to continue using the textbook or change do a different one with more focus on critical thinking, such as "Pathways" from Cengage.
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Once again I was happy with how the assessment structure worked. We provided a lot of transparency to the students and they were able to monitor their progress easily. We also gave opportunities for them to self and peer assess their work.. However, in most cases the students were apathetic about their progress and simply accepted what they were given.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion I	2	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focused on communication. Using the text Global Communications, the students examined various topics of global significance. The focus was on listening and speaking activities to improve communicative skills. They also had to work in groups on projects that required them to synthesize the material introduced in the course and make presentations.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students did quite well overall. There was a lot of positive energy in the class.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There weren't any serious problems. They had a good attitude and all targets seemed to have been achieved.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	We need to continue building on the students' skills and encourage them to participate actively.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	No particular problems were encountered in this course.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Multimedia English	2	前期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	We continued with our focus on Active Learning in Room 531, plus used our Moodle CMS website. All materials were available to our students online, and could be accessed by PC, tablet, or smartphone. Each week, the students were introduced to a different form of media-based technology. These included SNS services, podcasts and audiobooks, movies, graphics services, presentation software, and so on. They practiced using these, then presented their results to their group or to the class.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された		達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	With a two exceptions caused mainly by low attendance, all students participated fully in this class, so we generally achieved all the targets that were set at the beginning. Most students got final grades above 80% with a few achieving over 90%. Materials created by the different activities were usually uploaded to the website and shared with others. This created a collaborative atmosphere, and a mild sense of competitiveness, so students were keen to exhibit their best work. In addition, for the final assessment they were required to choose and evaluate a piece of software or a web service and present it to the class. This they did extremely well, producing some interesting presentations.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As shown above, almost all students achieved well in this class. Just as we have found in other years, because this is a fairly non-academic class, plus the students can generally work at their own pace, this class was particularly beneficial to those students who might find it difficult to achieve success in other areas. It was good to see a number of students who have difficulty in more academic classes succeeding in this class.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	We moved our focus away from CHleru this year and more onto creative activities. This had a positive effect on student efforts, and set them up well for the Presentation Studies class they will take in Semester 2. The ongoing challenge is finding media resources that are new or useful to them. For next year, the emphasis will be more on self-study resources, particularly those that students can modify for their own needs, such as Quizlet.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Students were able to access the assessment data well, though we need to make it more streamlined so thsat they access on a more regular and efficient basis. ☐
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Extensive Reading III	2	前期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	10代後半の一般的な学生が興味を持ってそうな内容かつ難易度の英文を、電子辞書を使いながら、限られた時間内で読めるようになる力の養成に重点をおいた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Extensive Reading という部類の授業にはなっているが、一般的な意味でのExtensive Reading になっているかについては判断が難しい。授業外活動で5万語以上の読書を達成したことは評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。
--	--------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については演習科目であることを考慮すれば妥当。しかし、学生がその点を理解し、満足度を感じられているかは、今年の学生については、判断が難しい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	来年度以降、カリキュラムの修正があるので、読解力養成の流れを再考したい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Paragraph Writing	2	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語を書く習慣を付けるために、自分自身のことについて身近な話題について書く課題を与えた。誰もが毎日行う行動や胸に浮かぶことがらを扱う語学書を教科書として、それをベースに自分のことについて書きやすくした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎週の課題はきちんと提出され、その英文だけでも以前よりは英語を書く機会が増えたことは間違いない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当
--	----

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	進め方はこのままでよいと思っている。ただ毎週せつかく添削やフィードバックをしても、 どれほどそれが積み重ねになっているかは不透明な部分がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	おおむね順調である。
------------------------------	-------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Paragraph Writing	2	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focuses on two main points: basic grammar review and writing construction. The first part of the course reviews basic grammar while getting students to write correct sentences using the unit's grammar point and topic. The second part of the course continues reviewing grammar, but with more importance being put on proper paragraph and essay construction.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Generally the students were able to complete the activities. Occasionally the homework wasn't completed in a timely manner and this led to delays in progress. The first part of the course was better understood than the second part. They struggled to clearly understand the paragraph and essay construction elements.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The first part of the course requires them to revisit their understanding of grammar. Although the students for the most part tried hard to understand the material, they struggled with the second part of the course. Achieving a solid understanding of paragraph and essay construction remained elusive to most of the students although they did try hard to understand the concepts presented. This may require some tweaks to the course so that they can get a stronger base before moving on to the next stage.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	As stated in the previous section, some changes to the course where they can get more practice in understanding the paragraph constructs before moving on would make progress more successful.
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	The assessment of the course seems to be sufficient at this point. The problem lies more in the students' understanding of the material as pointed out above.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学入門Ⅰ	2	前期	必修	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、そのような中文学の知識や楽しさを教授できるように工夫している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	通念は概して目標は達している。そして今回も、学生の「達成度自己評価」を見ていると全ての項目において3.8か3.9であり、ほとんどの学生が目標を達成した様子がうかがえる。しかしながら、今年は自由記述に訳に重点をおいたことへの不満を書いたシビアな意見が2件あった。これは、ある程度の英語読解力がある学生が授業にものたりさを感じた結果であると思える。しかしながら、大半の学生は授業中に訳をさせてみると間違えや理解不足が目立ち、訳を確認していくことは、読解授業の上で欠かすことができないプロセスである。大クラスでのレベル設定の難しさを痛感した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。ただ前述した通り、大クラスにおいて、一部のレベルの高い学生の関心を引きつけておきながら、基礎的レベルを教えることが困難である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」は全ての項目において、4.0と3.9であったことから、概ね大丈夫と思うが、レポートがあったのにもかかわらず、図書館を利用した学生がわずか12名(45名中)であったのは残念である。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	この授業を始めて、もう数年が経ち、授業内容は習熟期にさしかかると思えるが、私自身も教育者として、その内容がもっと深化できるように、学会や研究会にもっと参加したり、研究論文を書いてみたいと思う。公務が半端ではないので、時間との戦いである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Area Studies I	2	前期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目はカナダを対象にして、その言語から政治・経済・文化、さらには国民性といった側面に至るまで、およそカナダの総合的理解に不可欠な項目を網羅して取り上げ、カナダの総合的、また包括的理解を目指しました。授業準備段階に当たっては、効率良く、また系統的に各項目が取り上げていけるように、専用のテキストとして拙著『カナダ—言語・文化・社会—』(2017年、関西学院大学出版会)に最新情報を加えた改訂増補版(2018年、同出版会)を上梓して、使用し、受講生の授業中のノート筆記などを最小限に止めると同時に、受講生の効率的な予習復習の便宜を図りましたが、これは狙い通りの結果が得られたと考えます。また講義科目にありがちな、一方的な授業でなく、受講生一人一人に個別の小テーマを与えて、研究発表をすることを取り入れましたが、大きな効果がありました。さらにカナダ諸地域の旅行番組や文化紹介のテレビ番組の録画を頻繁に利用して、番組を楽しみながら、受講生が一層、カナダに興味を持ち、授業に取り組んでもらえるように、授業計画に取り入れて、授業を進めました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度は、科目の性質上、学期末試験は行わず、学期末レポートを中心に成績評価を行いました。今回は学期末試験を実施して、カナダ全般に関する基本情報や基本知識がどれほど習得されたかを客観的に評価しました。この学期末試験には、「日本とカナダの相違」について意見を尋ねる論述式の問題も加えて、日加比較の視点から、受講生自身が、本科目受講後に、カナダの捉え方がどのように変わったかという点も確認しました。学期末試験そのものは、受講生の平均が70点前後になるように調整して出題しましたが、最終的に、学期末試験の素点の平均がほぼ78点という結果となりました。また受講生一人一人に、カナダに関する個別テーマを与え、授業の中で研究発表すること、発表後に発表内容のレポートを課しましたが、大半の受講生は熱心に調べて満足のいく研究発表を行いました。これらの結果は、当初、最も高い「達成された」評価を与えて良いと考えましたが、授業アンケートを見ると「図書館やインターネットの利用」が利用しなかったと記入した人が利用した人の倍もあったことを鑑み「やや達成された」と評価しました。ただし、研究発表では、必ず図書館and/orインターネットを利用しなければ研究発表できないし、実際に発表後のレポートの参考文献にはネット上の情報や図書館の文献が明記されているので、研究発表の際に利用したことをアンケートに記入しなかった受講生が多いと考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムMAPにおいて、本科目は選択科目であるものの、およそ英語研究の3本の柱「英語学、英文学、地域研究」の一つを担う科目として、英語圏の国の代表の一つであるカナダを対象に、言語・文化・社会・国民性といった総合的研究をして、理解を深めることを目指していることから、本科目の位置づけは十分に通っていると考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	予め授業計画に沿って用意したテキストを授業のペース・メーカーに使用すると共に、受講生一人一人にカナダに関する個別テーマを与えて研究発表をしてもらい、かつ、発表後にレポートを提出してもらったことは、受講生にとって、一方的な受け身の授業に終わらず、自らネットの情報を探し、図書館で文献を収集して研究発表したことは、授業全般への取り組みにも強い動機を与え、積極的に取り組む姿勢を育てたと考えます。また授業アンケートの「自由記述」欄に受講生が「人のプレゼンぎくの楽しかったです」と書いているように、授業中の研究発表は他のクラスメートも楽しみであり、関心があるので、発表者以外の人たちへの良い刺激となるために、今後も継続すべきであると考えます。なお授業期間の最終段階の時点で、授業中に取り上げた内容のうち、特に重点を置くべき項目を、キーワード一覧表にして配布しましたが、授業の総復習の際に役立ててもらえたものと考えます。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上記の項目4にも記しましたが、授業アンケートで「インターネットや図書館の利用」が十分に利用されていない結果を鑑みて、全般的には「やや達成された」との評価をしましたが、実質的には「達成された」と評価をしています。一方的な講義に陥らないように、教室では受講生との質疑応答やディスカッションに十分、配慮し、また受講生自身が調べ、研究し、発表する場を、必ず設ける基本方針で、今後も授業を進めたいと考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅰ	2・3・4	前期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	毎回、授業準備にかなりの時間を費やした。言語学は、言葉に対する強い関心を持つ者にとっては極めて魅力的な学問内容であるが、言葉に対する意識や言葉の面白さに対して関心が薄い、考えたことがない者にとっては、その魅力を感じてもらうことが極めて難しいこともある。そうした受講学生を含めて、どのようにすれば、興味関心をかき立てることができるか、毎時間毎時間格闘している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎時間、授業の最後に「リアクションペーパー」を書くことになっており、その記述から、必ずしもこちらに意図通りにではないにせよ、言語学の各分野について、関心が高まったことはうかがえるので、「やや達成した」と判断する。もちろん、的外れなコメントや、授業中にあからさまに興味のない態度を見せる学生もいるので、十分達成されたとは言えない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語学科という学科が大学として設置され、入学してくる者がいる限り、英語学概論(入門)、言語学入門などの科目は必須科目である。但し、市販の一般的な学習内容は、本学科ではそのままでは通用しないので、工夫が必要である。科目の妥当性は極めて高い。スキル科目、プレゼンテーション能力養成科目だけでは、専門学校との差別化が図れず、大学ならではの「学問・研究」に触れる時間を提供することは欠かせない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	毎年工夫を重ねているので、少しずつこの大学のこの学科で、どのように授業をすれば学生達にわかって欲しいことが通じるのか、つかみつつある。それでも時々、この程度はわかっているはず、というレベルの認識が現実とずれていることがあるようだ。そのズレが、ときにプライドの高い学生を傷つけることもあるようなので、その点は気をつけたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	毎年、学生の意識や認識に近づいて授業ができるようになってきていると思っている。来年度も今年感じた反省点を活かして、全員が文句なく面白い、と感じる授業を目指したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーション I	2・3・4	前期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「異文化間コミュニケーション I」という授業は、選択であるものの、多数の履修生を毎年有する科目である。その一方で、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「意欲関心」「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、他の項目に比べて高得点でなかったこと、そして到達度自己評価で「まったくそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名ずついたことによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、問題がないと思われる。さらなるアクティブ・ラーニング化をめざして、何ができるのか／何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本授業を担当することになって6年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は向上してきていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。また、到達度自己評価で「まったくそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生（各1名）がいたという事実を受け止め、今後はそのような学生を出さないように努めたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	2・3・4	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学科における日本語表現は、単なる技術、テクニックの修得に留まらず、根底にある大切な日本文化、西洋文化の理解をも念頭に入れた学習が成されなければ、完璧とは言えない。それを学生がまず、熟知するところからはじめなければ、ただの、練習、ただのおけいこ、になってしまう、ということを学生自らが、よく理解するべきである。そういった根本的なバランスの取れた解釈、理解を講義に取り入れて進めてゆきたいと考えている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価としては、70パーセントから75パーセントあたりまで伸びているようである。学生自らの意見を交換することによって、思考の切磋琢磨も不可欠であり、意見をまとめる力、をも重視しなければならないと思う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た内容的妥当性は、75パーセントは活かされていると思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	改善策としては、もう少しグループワーク的な授業を進めてゆけばよかったかもしれない、ということである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況は悪くはないが、教育の質向上のためにも、多くの事例を用意したいと考えている。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語入門	2・3・4	前期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	時事という分野は、難解なイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた英文記事の背景知識にも言及し、それらを日本語で説明することで、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。そのために、できるだけ新しい内容のニュースをリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にもニュースや時事事項にふれる機会を意識的にもたせるため、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に時事英単語の中間試験を実施した。リーディングに関しては、入門というクラスの性質上、比較的短い分量の記事を1回の授業で2～3本読ませ、授業時間内に単語の反復練習を実施して、内容の理解と記憶の定着を図った。リスニングに関しては、ディクテーションスタイルを採用し、放送される英文の速度を2段階に分けることで、正しい単語の聴き取りを徹底した。昨年に比べて受講者数が大幅に増えたが、個々の学生の理解度がある程度把握することができた。また受講生の学習姿勢や意欲が旺盛だったので、双方向性の高い授業を展開することもできた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中23.9と良好であった反面、定期試験については50点満点中21.2と半分にも到達しなかった。中間と定期とで、平均値が対照的な結果になった。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点中8.9という平均値が出ている。これは昨年よりも受講生が大幅に増えたため、毎回の授業で全員に指名することにフォーカスしすぎてしまい、結果として一部の学生の発言に偏向したことがあった。クラスの雰囲気は友好的であったが、それが結果として数値につながらなかった。よって到達した点とそうでない点が混在していると判断して、達成されたかという点については、どちらともいえないという結論に至った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	事事的分野は、普段学生が意識しないとふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた内容の理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	昨年同様、定期試験の結果が、こちらの予想に反して、正答率が低かった点が懸念材料である。毎回短い記事を大量に読んだために、欠席や遅刻をするとその分の内容理解がおろそかになるため、それが原因で結果的に定期試験の得点低下を招いたと思われる。定期試験の答案をあらためてチェックしたところ、完璧に解答できている設問と解答が無記入になっているという答案パターンが多かった。この点に関しては、試験前に復習などの時間を創出し、あらためて学習した内容の理解・定着強化を図るべきであった。今後の課題として、欠席した場合のフォローアップを教員サイドからより積極的に行うようにしたいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。実際、自由記述においても、「とてもためになる授業だった」「テレビでみているニュースのキーワードについて英語で学ぶことは、新鮮でした」など好意的な意見が記入されていた。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、毎時間復習する時間を設けるようにしたい。特に、最終授業日は内容確認などの復習に割り当てるなど、柔軟な授業展開行うことも今後積極的に検討していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2・3・4	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・大切にしていることは、①学生が国際経済の事象に関心をもつこと、従って、国際経済に関する記事に目が行くようになること、②今年起きている国際経済の出来事や最新のデータを示しつつ、どういう意味を持つのか理解させること、③経済事象Aが起こると、次にどういう経済事象Bが起こるのか、といった経済的な因果関係、連動の関係を理解させること、などである。 ・授業計画では、広く国際経済の諸事象を取り上げ、関心をもつこと、学ぼうとすることのきっかけを作ろうとした。特に、外国為替の部分、貿易政策の部分はポイントとなる旨伝えた。授業準備では最新の新聞報道などの情報やデータを伝えることに努めた。例えば、今年2018年前半は、米国トランプ大統領が中国やEUに対して輸入関税引き上げの保護貿易政策を実施し貿易摩擦が激しくなってきた状況などを取り上げた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・「全体を通して」について、学生の「自分なりの目標達成」は英語学科3.7(昨年3.4)、観光文化学科3.4(3.2)とまずまずであり、「やや達成された」と考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は英語学科3.8(3.4)、観光文化学科3.6(3.7)であり、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は英語学科3.8(3.4)、観光文化学科3.6(3.6)であり、知識理解は「やや達成された」と考える。「的確に判断する力を得ることができた」は英語学科3.8(3.4)、観光文化学科3.5(3.6)であり、同様に思考判断は「やや達成された」。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、英語学科3.8(3.3)、観光文化学科3.5(3.3)であり、また、「職業選択の参考になった」は英語学科3.5(3.3)、観光文化学科3.3(3.3)であり、この辺りから、意欲関心は「やや達成された」。態度(DP-4)には「国際社会の一員として自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる」「自分のもつ能力や知識を国際社会…の発展に役立てる方法を考え、実行できる」が含まれるが、「的確に判断する力を得ることができた」3.8(3.3)、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」3.7(3.3)、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた」3.5(3.3)から、「やや達成できた」と考える。 ・「全体を通して」に関連するが、成績評価総合点の平均は、英語学科77.71(昨年2017年 70.96)点、観光文化学科76.56(75.29)点であり、この平均点の水準からも、「やや達成された」と言えると考ええる。なお、両学科合同の授業であったが、上記の通り、英語学科の平均成績が観光文化学科よりも若干上回った(昨年は下回った。一昨年は上回った)。この両学科の平均成績の対比は、上述の「知識」の新たな修得や「理解する視点」、「意欲・関心」において、英語学科の方が観光文化学科を若干上回ったことを反映している模様である。また、「関心のある内容である」ので受講したという学生が、英語学科では44.3%(昨年39.9%)と、増加し、これも反映している(観光文化学科は49.9%と昨年の55.6%からは逆に低下した)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	人文学部と両学科のDPIにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「社会人としての基礎的な学力」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および学生の上記到達度自己評価、上記の学生の一定の成績から、内容的には妥当と思料する。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・国際経済の理論より実際に起きている事象の理解に重きをおき、教材に多くの写真を載せて学生の関心を引きたいと思っているが、一方、初めて経済を学ぶ学生が多いことから、理論・理屈についても十分説明して理解を向上させるようにもっと努める必要があるとは感じる(例えば、インフレの国の通貨は何故安くなるのか等)。「むずかしい」との学生コメントが授業中のアンケートで示され、授業時間に受け取った質問票に丁寧に答えることで対応してきた。授業評価では「説明は理解しやすい」が英語学科3.6 (昨年3.3)、観光文化学科3.3 (3.0) となって、昨年度並みであったが、若干改善が見られたのは喜ばしい。 ・「パワーポイントが見にくい。プリントが見にくい」との学生意見が寄せられた。パワーポイントでは、配付するプリントの説明を図示して補足するために、また、キーワードを示すために、使っている。これは字が大きいはずなので、できれば、もっと前に座って見てほしい。プリントは、A4版に長い文章を書いてあり、慣れないと確かに読みにくいかもしれないが、授業で言っているように、ときどきキーワードをマーカーで色づけするなどして、自分で使いやすくしてほしい。また、プリントの画面を教室の画面に映しているの、見にくいと言っているのかもしれないが、これも、できればもっと前に座って見てほしい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・総括的には、英語学科学生からの評価は昨年度より若干上向いた、と認識している。来年度本科目を担当しないが、この授業で学んだこと、少なくともキーワードは、時事ニュースなどで出てきた場合、授業で扱っていたなと思い起こしてほしい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	篠原 淳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
簿記演習	3・4	前期	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業に関しては、授業開始時に前回の復習ポイントをわかりやすく示して、学習準備がうまくできているかの確認をしながら、その到達度を確認した上で授業を行った。簿記の場合、資格取得が就職に役立つ点をきちんと説明し、学生のペースに合わせる形での授業進行を心がけた。確認テストは適宜行い、学生に緊張感をあたえながら授業計画による達成目標をおよび学生の理解が乖離しないよう鋭意務めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、大半が4.6であり、4.2となっている各学生の興味に関わる部分においても、ある程度納得を得ている。しかし、英語に関心がある学生のため、自覚はあるものの本科目に重点を置くほどには関心を得られなかった可能性がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目ではなく、卒業後の仕事に役立つような位置関係になっていると考える。しかし、少人数で各自の理解度が捉えやすかったため、今後資格取得に発展できるように成長させられることができたと思う。各自の関心を増幅させることもできたし、一部ではあるが実際に資格取得を成功させることができた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	全体を把握させることには成功しているが、各自のレベルを同じ合格可能レベルにまで引き上げるまでにはいかなかった。しかし、最後に授業においても今後も継続して勉強していきたいという大きな動機付けには成功した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体としては、学生の評価も含めてうまくいったと考えられるが、受講者全員が授業時間以外により自主的に勉強するように誘導するまでには至らなかった点ではまだ不十分であり、さらなる工夫が必要であると考えている。来年度はこの反省を踏まえて、より細かな指導を心掛けたいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	岩井 朝子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳ガイド演習 I	3・4	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	通訳案内士の資格試験がなくなったので、より実践的な授業を心掛けた。外国人観光客に接した時に、ちょっとした話題となるようなトピックを想定して授業のプログラムを作った。また、日本の着物や茶道といった伝統的文化だけでなく、学生が身近に感じられるようなポップカルチャーなどの話題も取り入れ、学生に積極的に意見を発信してもらえるような環境を与えるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	回答者の人数が少なく判断が難しいが、「英語を話す機会が多く与えられ自信につながった」というコメントをもらっている。成績の分布においては、A、Bの度数が高く、特にプレゼンテーション能力の向上が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、国家試験合格を目標とした科目であったが、通訳案内士試験に関する法案が新たに可決され、国家試験無しで外国人観光客の案内ができるようになったため、科目自体の妥当性が問われることになったが、試験の可否を目標とするのとは別に、外国人観光客と触れ合う機会は確実に増えているので、他国の文化に興味を持って共通語である英語で知識を得ることはこれから必要を増していくと思う。また、学生の受講動機にも「関心のある内容である」という選択肢を選んでいることから、内容的には妥当であると思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	スピーチ、プレゼンテーションの機会を多く設け、学生が発言しやすいような授業の雰囲気を作り、双方向の授業を実現しようと努力した。授業に対する予習復習時 間が少ない学生が多い。授業で学んだことを定着させるために復習を促し、学生が発言しやすいような双方向授業の雰囲気を作ることが大切になる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	プレゼンテーションや発表の機会を多く与えることで、双方向の授業を実現し、学生に日頃から課題意識を持たせる努力が必要になる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion I	3	前期	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The focus of this course was on critical thinking. The text, Think Smart, provided a good foundation for this with solid explanations and examples, both written and oral.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students' attitude was generally positive despite the challenging nature of the course.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The material was a bit challenging for the students to understand and therefore made it difficult to achieve the required targets.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

More time was necessary to go through the material to ensure comprehension.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

For the future it would be better to have a slower approach to the material and provide further support for them.

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion I	3	前期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For this year, we abandoned the previous syllabus and went to a task-based and critical thinking style course built around the textbook "Think Smart". This course was built around current and relevant topics and involved the students in reading, researching, thinking about, discussing, and presenting their findings.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This class functioned much better than previous years, and the students took part in all activities fully. Their presentations at the end of each unit revealed a far greater depth of understanding of the issues they were researching. Their groupwork was well done, and they shared responsibility well. The only major issue was their reluctance to use English in group situations. For next year, we need to find ways to resolve this issue.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1: Students were required to use the skills they had learned in Years 1 & 2, plus do adequate research for the unit topics. They handled this well. DP2: This area was much better than last year. They understood the roles that were required of them and were able to use their skills to achieve each unit's aims. DP3: When given a task, the students worked very well and achieved great results. They were always positive in class and this reflected in their work. DP5: Aside from the issues of not using English for group work, the students developed their general English skills well.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	For next year, we will continue what we started this year with the "Think Smart" textbook. However, currently we are planning to use the same textbook for the entire year instead of just one semester. This will enable us to spend more time on each topic and develop their research skills and groupwork skills more.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Likewise with last year, as parts of this class are self- and peer-evaluated, no great changes are anticipated. We do, however, need to provide the students with more robust tools to build their assessment around. Although they were provided with a grading rubric, this need to be further broken down so they can evaluate their own progress better. This can be achieved in consultation with the students.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Michael Jordan Berg

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Extension I	4	前期	選択	no	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	No textbook was used, but we did a variety of handouts from which class discussions stemmed. For example, school, friends, family etc.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	Yes	Yes	Yes	Yes		Yes
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Grades were given based on participation and effort exerted. Students seemed generally satisfied with the class, and it seemed neither too difficult nor too easy so I suppose I will continue to administer it the same way next year. There was no internet outside learning.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The class was communicative with plenty of opportunities for free discussion however students' levels were such that much care and structure had to be provided. Motivation included providing a fun atmosphere and positive feedback generally.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Students levels were all over the place. Some were basically fluent and others very low level. Surprisingly so frankly so, keeping students on task was perhaps the biggest challenge as some would finish tasks early and then – having nothing to do – interfere with the slower students completion of said assignment. A good way to proceed then would be to seat students next to other students of comparable capability perhaps.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Maintaining a positive atmosphere and keeping the zone of proximal development level ideal is key in these classes but generally the students enjoyed and were challenged by the class, and so I will continue to do it how I have so far frankly. In this class, keeping students from falling back to their native language was the most difficult challenge. I should perhaps focus on my handwriting on the board however as it can get messy.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Michael Jordan Berg

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Public Speaking	4	前期	選択	No	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	We watched a variety of TED talks and analyzed them. No textbook but students were to give a number of presentation throughout the year and critique fellow students'.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Grades were given based on participation and effort exerted. Students seemed generally satisfied with the class, and it seemed neither too difficult nor too easy so I suppose I will continue to administer it the same way next year. There was no internet outside learning.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The class was communicative with plenty of opportunities for free discussion however students' levels were such that much care and structure had to be provided. Motivation included providing a fun atmosphere and positive feedback generally.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Keeping students on task was perhaps the biggest challenge as some would finish tasks early and then – having nothing to do – interfere with the slower students completion of said assignment. A good way to proceed then would be to seat students next to other students of comparable capability perhaps.
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	With this class specifically I struggled to decide if I should use – or how much I should use – subtitles with the presentations we watched. I ended up using them usually because otherwise the meaning would be lost on many students. Maintaining a positive atmosphere and keeping the zone of proximal development level ideal is key in these classes but generally the students enjoyed and were challenged by the class, and so I will continue to do it how I have so far frankly. I should perhaps focus on my handwriting on the board however as it can get messy.
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Academic English Writing	3・4	前期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ライティングテーマの選定を慎重に行い、学生達を書く意欲を保ちやすいように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	課題に最後までできちんと取り組んだので、一定の向上は認められる。しかし、論理構成にしたがって英文を書くことに対する意欲が増したかどうかは、判断材料がない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。
---	---------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	アカデミックライティングの構成や論理展開の修得を優先して授業をすべきなのか、基本的なライティング力の底上げを優先すべきなのか、迷うところである。この数年、前者を優先してきた。なぜならその部分は、大学に入って初めて学習する内容であり、大学で新しいことを学ぶという満足感にもつながるはずだからである。しかし、基礎的英作文能力が十分でないと、論理展開を自分で確認することも不安定なままになるので、判断が難しい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	来年度に向け、改善に努める。
-------------------------------	-----------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅱ	2・3	前期	選択	はい	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講義の目的は英検準1級に合格することで、履修条件として学生は、英検の2級にすでに合格していなければならずかつTOEIC650を取っていなければならない(→英検2級と準1級ではレベルが違いすぎるため)。単位取得のためには、授業の評価に加えて、英検準1級に合格することが必須となっており、2級から準1級という大きな壁をわずかな時間でどう乗り越えるかが課題となる。単位取得の厳しさについてはシラバスや1回目の授業で警告するので、やる気のある学生だけが残り受講動機としては②が100パーセントであった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	厳しいことを承知の上、受講してくれた2名の学生(登録は3名いたが1名は脱落)は残念ながら準1級には合格しなかったもので、上記の評価となった。英検には合格しなかったものの、毎回のミニテストで得た語彙力強化や、読解力の飛躍は非常に効果が見られたので、意欲関心、態度という面では目標は達成され、英検では成績が出なかったにもかかわらず、英語力全般の向上は非常に見られたので、全体としては「どちらとも言えない」と評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生はレポートの提出も全て行い、授業内外でやれることは全てやったように思える。自己達成評価に関しても不合格にもかかわらず全ての項目が③④⑤であった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、2名中(1)準備⑤2名、(2)復習①1名⑤1名であった。(3)(4)は要求していない。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	半期で合格という目に見えた効果を出すのは難しかった、意欲に満ちた学生の英語力は劇的に上がっている。この科目を受講して、受講期間中に英検準1級に合格した学生は、ついに今までいなかったが、少人数でハイレベルな内容を扱える授業として、英語力のある学生の受け皿となってきた授業であった。また英検準1級の合格では成果は出せなかったものの、この授業を受講した学生は必ずTOEICでハイスコアを取るなど、英語の力は確実に高まったと言える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語研究Ⅰ	3・4	前期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、応用時事英語からさらに発展させた授業という位置づけである。研究というタイトルが付与されている点を踏まえて、これまでの時事英語関連の授業において重視していた時事英単語を中心に習得するだけでなく、学習した内容について日本語および英語で意見や考えを発表し、それらを受講者全員で共有できる機会を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成された	達成された	達成された	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、タームの中間で実施した中間試験の平均点が、30点満点中18.6で半分を少し上回る程度の結果となったことから、ターム期間中の教育目標としてはやや達成されなかった。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中10.1という平均値が出ている。これは昨年の19点からダウンしている。その原因としては、受講者間で発言などの授業参加にばらつきがあったと分析している。クラス全体の雰囲気は非常に良好であったにもかかわらず、数値として満足のいく結果ではなかったため、あらためてクラスマネジメントの重要性を再認識した。定期試験については、50点満点で平均が32.0と平素の小テストに比べてやや改善したものの、昨年に比べると総合得点で10ポイント下がった(昨年度の総合評価の平均点:89.1→本年度77.4)。この最終結果を踏まえると、受講生の態度や学習姿勢は良好であった反面、試験の結果が昨年よりもダウンした点を踏まえて、教育目標達成はどちらともいえないという結論に至った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生がふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。今回の受講生は、昨年と比べると、受講態度や学習姿勢が極めて良好だったが、授業で習得した内容が筆記試験に結果として反映されていなかった。これが昨年度の受講生と対照的だった点である。昨年度のようにクラス全体を集中させる労苦はなかったものの、自宅学習を徹底させるなどのフォローアップが不足していたと考えている。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性はほぼ確保されていると考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年までターム期間中に小テストを2回実施していたが、今年から中間試験のみの1回に変更したが、こちらが想定していた以上に正答率が低かった。定期試験についても、昨年と難易度は同一であるにもかかわらず、下がっている。今後の課題として、試験前に復習の時間を意識して創出し、学習した内容の理解・定着強化を図ることもひとつの改善策と考えている。個別コメントに関しては、非常に好意的なコメントが書かれていた。担当者自身は毎回の授業で学生の反応がよかったので、手応えを感じていたが、それが最終的な数値で望ましい結果に至らなかった点が残念であり、授業運営において改善の余地がまだあると痛感している。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門および応用時事英語で学習した成果を発展的レベルにまで上げるという目標はおおむね達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、適宜復習する時間を設け、試験の高得点化を目指したい。くわえて、学生間の意見交換やペアワークなどのアクティビティをより多く取り入れ、日本語から英語へのスムーズな移行を経てからの自己発信を積極的にサポートできるような体制も今後構築していきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用ビジネス英語	3・4	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまでの授業方針の継続として、ビジネス実務の現場を反映した英語を学習することに重点をおいた。また昨年同様、テキストを使用するのではなく、ハンドアウトを準備して配付という授業スタイルを継続した。また内容についても、「応用」という科目名にふさわしく、ビジネスの中核を担うマーケティングの理論と事例を英語で理解するという形態を昨年度に引き続き導入した。また最新のビジネストrendやマーケティングが反映された実際の企業のケースなどを掲載した新聞記事なども援用しながら、ビジネスを多角的にとらえられるようにした。くわえて、比較的スピードの速いビジネス英会話のディクテーションも導入し、現場の雰囲気やリアルなビジネス英語を体感するトレーニングも取り入れた。また、学習した成果が確実に定着しているかを数値的に確認するために、中間試験を実施した。出欠に関しては、これまでと同じく初回の授業で説明したうえで、無断欠席や遅刻をくり返すと、学習に著しく支障をきたすだけでなく、他の受講生との学習「格差」が広がるおそれがあるとして、15回すべて出席することを求めた。また、無断欠席や遅刻によって、前の週で獲得した貢献度(発表)による平常点が消滅するおそれもあるなど、平素の学習意欲や態度が成績評価に直結する点も再度周知徹底した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	はじめに、出席したうえで授業貢献度(配点:20点)という項目を設定した。これは出席が大前提の評価項目だが、この点に関しては、大半の学生が積極的に発言を行った結果、非常に有効だった。発言の順番などの指名に関しては、特定の学生に偏向しないように注意をした。この項目の平均値は11.2点だった。こちらからの指名については問題なかったが、挙手発言については、受講者間でばらつきが散見された結果、それが得点差にも顕著に表れた。中間試験(配点:30点)に関しては、平均値が18.3という結果であった。定期試験(配点:50点)に関しては、学生間で得点格差が多少あったが、平均して正答率が6割程度だった(50点満点換算で平均値31.8)。これらの客観的なデータから判断して、教育目標はやや達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ビジネス英語においては、業種・職種にかかわらず共通して必要な単語が数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、などの項目において、全員が「そうだと思う」の項目を選択していることから、内容的に妥当であると考えられる。またビジネス英語そのものに関しては、自由記述の意見として、「ビジネスについて分かりやすく学べた」「将来のためになるので、仕事の話とかもっと聞きたいと思いました」という記述があり、昨年から継続して導入した項目が、学生に好意的に受け取られていたことがわかり、授業スタイルを変更したことによるひとつの成果ととらえている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	中規模程度の人数のクラスだったが、受講生の学習意欲や姿勢が良かったので、授業を進めるうえで、確認や意見交換などコミュニケーションのやりとりを非常にスムーズにすすめることができたと考えている。授業の質評価におけるすべての項目で、全員が「そうだと思う」という評価を行っていた点からもそのように判断している。学習量の評価において、ほぼ全員が予習復習をしていたものの、自発的学習に取り組んだ学生がほとんどいなかった。学習の記録については、開講日に授業専用ノートを必ず準備し、単語の下調べなど予習の成果、英文の和訳などは、すべてノートに記録するように指導していたにもかかわらず、その指導が行き届いていなかった。受講者ひとりひとりに対して、よりきめ細かいフォローアップを励行していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	DP1知識理解に対する評価を全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標はおおむね達成できたと考えている。しかしながら、受講生は毎年変わるので、先期までの方法がそのまま有効に作用する保証はない。したがって、常に授業も進化・改善を図らなければならないと感じている。本科目は選択科目で3年生以上が受講し、これまで比較的英語力の高い学生が受講していたこともあり、当然できるだろうという盲信もあった。このような点を改善するため、開講の半ば(第7回もしくは第8回目の授業前後)で、ミッドターム・アンケートを実施し、学期後半の授業で活かすことも検討したい。指名スタイルについては、おおむね評価が良好なので、指名の方法やルールづくりを明文化するなどして周知徹底を行い、学生の学修ニーズやモチベーションキープに結びつくような授業準備および運営を行っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅰ	3・4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生にとっては初めて学ぶメソッドが多いので、初日の授業ではシラバスに沿ってクラスで取り組むアクティビティの説明を行った。実際にペア通訳を行い、リスニングでの問題点(リエゾン等)への注意を喚起し、リスニング力向上のために毎週取り組む課題の説明を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された	概ね達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	13名の受講生のうち「自分なりの目標を達成した」「知識を新たに得た」「意欲を深めた」等において7割の学生が「「わりに(4名)」と「かなり(5名)」と回答した。一方で「まあまあ」だという学生も2割から3割いた。受講生のやる気を維持し、今後も学生と双方向の議論を深めたい。自由記述を見ると「深く勉強できた」や授業内容について「新たに得ることがたくさんあった」という記載があった一方、授業のスピードが早すぎると感じた学生も1名いた。全体を見渡ししながら、通訳に必要な知識および思考力を強化するための努力を行っていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。今期は訳出力に加え、「自分の言葉で表現する力」の向上を目指した。「意見をまとめる機会が作られていたか」の問いに関しては「わりに(4名)」と「かなり(5名)」と7割の学生が機会が与えられていたと回答した。聞いた内容を日本語に訳出したあと、自分の言葉で言い換え、それを再び英語で言い直す練習を行い、積極的に発言するように求めた。学生にとっては大変な作業ではあるが、授業の進行とともに積極度が上がり、発話の量が増えた。自分の意見をはっきり言える環境作りを留意しながら、より多くの学生が気持ちよく発表できるように工夫していきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今期から、自宅での課題として毎週一つのディクテーションに取り組んだ。自由記述に「宿題が多くて大変だったが楽しかった」という記載があったが、クラス全体としても、毎週続けることで大変さを自ら克服していったようである。課題の量を適度に保ちながら、ディクテーションは今後も継続し、リスニング力向上に役立てたい。数年前から取り組んでいる「実践的通訳訓練」を行うために、教材の締めくくりのアクティビティーとして「ペア通訳」練習を行った。今日学んだ内容と自分の知識や感想を織り交せて1～2分のスピーチを日本語で行い、それをペアの相手が英語に通訳する練習である。これは、受講生にとっては大変な作業ではあるものの「自分の言葉」として取り込めるよい機会であるため、今後も続けていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	音声面での取り組みでは英文暗唱を通して英語のリズム練習を徹底することができたが、正しい理解力の基礎となる「品詞解析力」ではまだ課題が残っている。英語の発話の機会やディクテーションを通して、実践的に英語の基礎力を向上していきたい。情報の処理方法や、文章間の有機的なつながりを意識した行間読み力を深め、理解力・思考力の向上に役立つ授業展開をしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学研究	3・4	前期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①映像教材を媒体に、スクリーンプレイと原作の比較、フェミニズムの研究を行った。 ②授業の7回目に中間テストを期末テストと同じ成績の比重で行い、試験勉強を分割したことで、学生の学習意欲を喚起した。 ③毎回の授業でレポートを課し、自分の力で考える行動を促した。 ④ほとんどの学生にとって選択科目であったが、選択動機には回答者36名中、「関心のある内容である」10名、「単位数を確保する」15名とが多かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価は全ての項目において平均値が4.0-4.2であることから、目標は達成したと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自由記述欄に「とても人生の勉強になりました」と記入してくれた学生もいた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	レポートの特性から図書館やネットでの検索を促すものではなかった ので、6図書館利用は39名中(1)6名(2)7名(3)9名などと、意外にも授 業以外にも自発的に学習したことが伺われ、近年の学生の勉強熱心さに 感心させられた。また毎回の配布資料に女性学の記事を載せたが、学 生は授業の合間に読み、熱心にコメントを記していた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「毎回スクリーンプレイを精読するのに忙しく、小説版の原作を読む 機会がなかったので、次回は短時間で紹介できるように準備したい と思う。」と去年のレフレクションカードに記したが、今年は小説版 の原作も紹介することができた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	笹山 郁生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
統計学入門	3・4	前期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の選択科目であるが、授業内容は「統計学」であるため、日頃、英語を学んでいる受講生にはなじみの薄い内容であるとともに、基礎的知識についてもそれほど多くないものと考えられる。そのため、授業内容について受講生に親しみをもってもらったり、授業中分からないことがあった場合、まず受講生同士でその内容を気軽に確認し合うことができるよう、毎回、受講生を4名程度の小グループに分け、授業内容をグループ内で確認し合うことができるようなグループワークを取り入れた。また、授業内容をできるだけ理解してもらえるよう、可能な限り、数式を用いずに説明することを心がけた。さらに、毎回、授業内容を復習するための課題を課すことによって、講義内容の定着を目指した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生の到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の中央値が4、それ以外の項目の中央値は3であった。また、すべての項目の平均値が3.4から3.6の範囲内であった。さらに、毎週の課題の平均得点率は84.4%、期末試験の平均得点率は77.2%と、一定の水準に到達していた。これらのことより、本授業の目標はある程度達成されたものと考えられる。 授業内容理解を目指した毎回の授業課題に対する期末試験受験資格のある受講生の平均提出率は92.4%と非常に高く、多くの受講生は熱心に課題に取り組んだものと思われる。しかしながら、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」の設問に対し、0回と回答した受講生が48.4%と、受講生の半数近く存在する。これらの受講生の中には、毎週の課題を自分自身の力でしなかった学生も含まれていると思われるが、このような受講生がどの程度、教育目標を達成することができたのかは不明である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の授業ではあるものの、その内容は「統計学」であり、他の授業と比較して、受講生にとってはなじみの薄い内容であったと思われる。しかしながら、統計学についての基礎知識は、英語学や英語教育学で卒業論文を執筆する際に必要となる知識・技能であるとともに、教職に就く場合にも、教育評価の基礎となる知識・技能であるために、基本的な内容については身につけておく必要があると考える。 受講生の受講動機を見ると、「資格取得に必要である」を選択していた受講生が回答者の33.3%であり、また、受講生の到達度自己評価を見ると「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の中央値が4であったことより、DPに沿った授業内容であったと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本授業では、授業内容を確実に理解してもらうために、毎回の授業にグループワークを取り入れたり、毎回、復習課題を課すなどした。また、受講生の理解度に応じて、授業の進度を調整した。このような授業方法を採用した結果、受講生自身が授業内容について理解する機会を増やすことができたと考える。 しかしながら、記述統計と推測統計の両者を扱おうとしたために、特に推測統計については、受講生が十分理解することができるだけの時間を取ることができなかったこと、また、知識伝達中心の授業形態となってしまうため、受講生が実際に本授業で学んだことを活用することができる力を身につけることができたかどうかについては疑問が残るところである。 これらの点を反省し、来年度は授業内容を記述統計に絞るとともに、実習の時間をより多く取り入れ、受講生が記述統計に関する知識と技術を着実に身につけることができるようになることを目指したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価の結果を見ると、全体を通じて数名、授業内容を十分には理解できなかった受講生がいたものと思われる。授業内容の見直しが不十分なまま、グループ課題を課したり、パソコンを使用した実習を課したりしたために、一部の受講生にとっては、負担が大きすぎた可能性が考えられる。 このような点を踏まえ、来年度は授業内容を記述統計に限定し、その内容を着実に習得できるように授業方法を見直すとともに、単なる知識の伝達とするのではなく、実習を適宜組み込むことにより、授業内容を活用することができる技術も習得することができるよう、授業内容、授業方法を見直したいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3・4	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①就職活動において、また就職後に必要な能力の一つがコミュニケーション能力。言葉にして相手に伝える能力。発表、グループ討議、模擬面接等、学生に発表の場を多く与えることを重点として授業計画を立てた。 ②就職活動中の4年生には就活に必要な知識を実践的に伝えた。3年生は来年の就職活動を踏まえ、企業研究の発表をさせた。同じ業種の企業の発表にならぬように学生と調整をした。また他の企業にも興味を持つように工夫した。 ③4年生の就活をテーマに質疑応答の時間を取った。4年生の経験は3年生の刺激になったものと理解している。 ④グループ討議を2回実施。そのうち1回はANNの実際に行われたグループ討議のテーマで実施。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①受講動機は「関心がある内容である」が38%であり、昨年に比べ13%減。しかし、到達自己目標は3.6点～3.8点。モチベーションを持って授業に参加してくれたものとする。 ②「自分が学ぼうとしている専門分野」が3.6点～3.7点。昨年より点数を伸ばした。学生によってなりたい職業がさまざまあり求めているものが違うため、今年度は職業の種類について、上場企業、学生の出身の地場産業等、学生の視野が広がるよう工夫した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみても内容的妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野」は中央値より高く。能力開発の観点から授業は妥当と考える。 ②学生評価アンケートに「色々な企業を知れておもしろかった」との記述。職業選択の観点から授業は妥当と考える。 ③学生評価アンケートの自由記述に「ためになった」「就活中だったこともあり、役立つことをたくさん教えて頂きました。実際の面接で役立てられました。」「面接時の言葉遣いやマナー等教えていただき、とても役にたちました」等の記述があり授業の内容は妥当と考える。 ④まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①グループ討議では、ブレインストーミングとKJ法を実施。時間が足りなく、KJ法で整理が上手く完結出来なかった。次年度は内容も含め時間配分等検討したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①授業内容は学生の発表とその準備、グループ討議、レポート提出(企業リサーチ)等、学生に委ねられている部分が多い。しかし期待に応えてくれたものと考え る。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3・4	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・貿易、投資など国際ビジネスの諸事象の実務的な仕組みを理解させること、最新の動向に関する情報を提供し理解させることに重きを置いた。また、国内外のビジネスシーンでよく使われる用語を多く説明し、理解してもらえるように努めた。就職活動でも役立ててもらいたい、また、社会人になってからの土台となる知識となつてほしい、との狙いもある。 ・用語(例えば、「入札」「合弁会社」など)は、学生にとって初めて耳にするものが多いこと、あるいは、聞いたことはあるがどういう意味か知らないことが多いことから、事例や図を使って、それらに馴染むように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が英語学科3.3(昨年3.0)、観光文化学科3.4(3.0)なので、「全体を通して」については、後述の成績評価も加味して、「やや達成」とした。「知識を新たに得ることができた」が英語学科3.0(3.3)、観光文化学科3.6(3.2)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が英語学科3.0(3.1)、観光文化学科3.5(3.2)、以上から「知識理解」を上記とした。「学ぼうとしている専門分野において判断する力を得ることができた」については、英語学科3.0(3.1)、観光文化学科3.4(3.0)、ここから「思考判断」を上記の通りとした。「学びを深めたいと意欲」については、英語学科3.0(3.1)、観光文化学科3.4(3.0)であることから、「意欲関心」を上記とした。上記の通り、英語学科学生の到達度自己評価は観光文化学科学生を僅かだが下回る形となっている。また、受講動機をみると、英語学科は「関心のある内容である」と答えた学生が0-であるのに対して、観光文化学科がそう答えた割合は42.4%(昨年28.6%)であり、英語学科学生の受講動機が弱い感が否めない。恐らく、この受講動機が、両学科の成績の差に出たのではないかと思う。すなわち、総合点平均は英語学科69.8点=6名(昨年2017年72.4点=34名)、観光文化学科 74.85=44名(75.3点=54名)であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・人文学部と両学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「ビジネスの領域についての幅広い理解と知識」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および上記の学生の目標達成状況、学生の一定の成績実績から、内容的にはほぼ妥当と史料する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業内容がむずかしい」の声は、授業期間中のアンケート等でも伝わってきたので、翌週のQ&Aの時間に補足説明してきたつもりである。初めて聞く馴染みのない用語、考え方だから、やはり難しいと感じたのであろうが、重要な用語にカラーマークしたり、予習・復習するなりして、理解できるようにしてほしい。 ・学生からの意見は、授業評価からは示されなかったもので、この点について記すことはない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題は引き続き、分かり易い説明の強化であろう。私が重視している「説明は理解しやすいものであった」は、英語学科2.0(昨年2.8)と悪化し、大変厳しいものであった(一方、観光文化学科学生からは3.5(2.8)と改善して受けとめられたので、喜ばしい)。しかし、授業中に英語学科学生から授業内容についての質問はなく(観光文化学科学生からは多数の質問があった)、理解しようとしてくれたのか、よく分からない部分がある。それが、前述の両学科学生の成績の差となったかもしれない。 ・私は来年度本科目を担当しないが、英語学科学生には、国際ビジネスの知識の必要性を認識してもらい、この授業で学んだキーワードなどは社会に出てからも使うことがあるはずなので、折に触れてテキストを見返すなど、してほしい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3・4	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 各講義ごとにアジェンダを配布。ノートをまとめ易くした。 2. 国際感覚の必要な業務に直結した授業である為、常日頃より航空関係の新聞記事や、TVのニュース、国内外の番組等に関心を持つこと、また日々の為替レート、原油価格など経済関係の事象に関心を持つことを促した。 3. 航空ビジネスを目指す人は知識と人格形成が重要になるため、多方面に興味を持ち、しっかりとした人間力を身に付ける指導に注力した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 航空ビジネスとは何か、を具体的事例に基づき講義していったことが知識の定着につながれたと思料する。(達成度自己評価より) 2. 課題に対する評価としては、内容的には良いものが多かったが、表現に今少しの工夫が必要と感じた。(達成度自己評価より)					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. 国際的業務につきたいという強い希望を持った学生に取っては有意義な科目であると思料する。また、航空ビジネスを通して国際感覚の養成にも対応できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

1. 航空ビジネスの具体例をもっと多く取り入れ、ビジュアルに表現したいと思う。
2. 実習を伴う講義に作り上げたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 航空ビジネスはあまり人目につきにくい業務が多いため、その内容を知りうるには時間が必要であるが、少しでも分かりやすく、更に関心を持てるように実例を多く取り入れる授業構成にしていきたい。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小学校英語教育入門	3・4	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 教職課程を履修している学生とそうでない学生では、背景知識に若干隔たりがあることが考えられるので、教育学や教育心理学などを学修したことがない学生でも理解できるように、専門用語の使用等については配慮した。また、教職課程を履修している学生には既習のことでも、解説をするなどして、すべての学生が講義の内容を理解できるよう気をつけた。 ② ほぼ毎回、学修したことを確認するための課題を提出してもらい、学生の理解を深めるとともに、学修状況を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87.5点で、ほとんどの学生が標準以上のレベルに達し、再試対象者はいなかった。成績から見ると多くの学生が理想的レベルに達しており、到達度自己評価については、平均値は4.0から4.3、中央値はすべての項目において4.0であった。一方で、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」という質問にはおよそ半数以上の学生が「0回」と回答していたり、図書館などを利用した学生が少数しかいなかったことから、学生の意欲や関心、態度を高めることについては十分ではなかったと言えるであろう。発展的な学習について示唆したりするなど今後、授業における工夫を検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 受講動機に大きな開きがあり、動機づけに苦慮する面があるが、最低限必要な部分と発展的な部分とをわかりやすく示すなど工夫し、成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から学生の達成度は概ね高く、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、どの項目についても「まあまあそうだと思う」「わり にそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、また、どの項目 についても平均値が4.3、中央値が4.0であり、肯定的に受け止められていると 思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業の内容、進め方、評価の方法については、昨年と大きな変化はないが、 解説をする際により具体的な例をあげるようにしたり、課題を出す際に アドバイスを添えたりした。学生の成績や到達度自己評価、学習量の 評価が昨年より向上しているのは、そこに原因があるのかもしれない。 実際、学生のアンケートには、説明やアドバイスが具体的でわかりやす かったとあった。今後もこの点に留意しながら改善を進めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習Ⅱ	2	前期	必修	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生で身につけた大学での学習に必要な学ぶ技術を駆使し実践を行った。 ②パソコンのパワポの技術を更に進化させるべく、表作成などの課題を課した。 ③学生の自発的活動を促すべく、2回目のプレゼンでは、学生自身から課題を話し合っ決定させるなどした。 ④引き続きマナーを重視し、女子大生としての品格を上げるべく、学生同士で啓発しあうことを促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては全ての項目が平均値3.8-4.1、授業の質評価においてはすべての項目が、平均値4.0-4.1であり、昨年よりは全体として高くなったが、大して高評価でも低評価でもなく、全体的に「まあまあそうだと思う」と感じた学生が多かったことがわかる。これらの学生の満足度と教師から見た学生の達成度に関する評価も同じ感じである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全体としてグループプレゼンの質がとても高かった。基礎演習Iを経て、グループとしてのチームワークをする困難さをむしろ逆手とり、上手な連係プレイで発表を行っていた。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	基礎演習の完結編であるこの授業では、学生の自主性を重視して、プレゼンのテーマから、グループ編成の仕方、座席まで全て学生主導で学生たちが考えて行った。グループワークの経験を積む機会を提供できたのは良かったと思う。しかしながら、グループワークで自由に活動する時間に不満を覚え、先生から学びたいという趣旨の自由記述が2件あった。自主性とこちらからのインプットのバランスの取り方の難しさを感じた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	プレゼンテーションでは図書館の本を利用するように指示したつもりであるが、「図書館の図書・雑誌の利用」は35名が利用しなかった(利用した9名)。一方、インターネットを利用した学生は20名(利用しなかった24名)であった。来年は全員を図書館に誘導するなど、利用につなげたい。しかしながら何らかの情報源なしにプレゼンをするわけにはいかないので、実際の利用者は(アンケート時点で忘れていても)もう少しいたのではと思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The focus of this seminar was on using movies, TV shows, and other media to build English skills
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This group participated well in all activities, though some members needed more focus on their follow through and background study.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All areas were achieved well, though as stated above, they needed more focus on follow up.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Nothing in particular

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Nothing in particular

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒論執筆に向けて「ロジカル・ライティング」をテーマとして設定した。演習形式で、研究のデザインの仕方・進め方などを具体的に学べるように指導した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述でほぼ全員が授業に関して高い評価を与えていることから考えて、特に改善課題はないと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。学生全員を同じように満足させる授業をデザイン・運営することは決して容易なことではないが、その実現を目指し努力を続けていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	世の中に対する理解を広げ、同時に英語力を養成するために、英語で書かれた新聞記事を丁寧に読み進める活動を行ったが、取りあがる記事は、学生達が無理なく関心を持つことができる内容を選ぶ点に、留意した。説明時は本文を大型テレビに映し出した上で、意味単位で印を書き入れながら、理解の補助とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	事前に与えた課題の予習によく取り組み、英文を文法に則って的確に読み取る力が向上した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である
--	-------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	毎年学生グループの気質を判断して授業を進めており、このグループに対しても適宜進められている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	卒業論文に向け、下準備ができてきた。
-------------------------------	---------------------------

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流の機会等を学生自らが体験出来る機会を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	発表や提出物について、全員が標準以上のレベルに達していた。特に授業の中での取り組みについては、全員が熱心に参加し、きちんとした思考に基づき適切な判断が行えていた。 学習到達度の自己評価については、全員がすべての項目について「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答しており、学生自らもある程度達成感を得られているものとする。 学習量の評価については、学生によって予復習の時間に大きな隔たりが見られる。個別に対応することを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、どの項目についても全員が「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」のいずれかを回答している。また、各項目についての平均値は4.7から4.8、中央値はすべて5.0であり、授業の進め方についても概ね妥当であると考え。一方、来年度の卒業研究に向けての基礎固めの課題が多かったためか、授業の課題以外に取り組んだり、図書館等を利用した学生が少なかった。学生が発展的な学修に自ら進んで取り組むような工夫を今後検討したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育目標については、概ね達成できていると思われるが、意欲関心と技術表現の面では課題を残している。具体的には、テキストや配布資料の学修にとどまったり、技能表現の不十分さから討論の深まりに若干の問題が見られる。少人数で実施している授業であるので、それぞれの課題について、きめ細やかに指導することを目指していたが、目の前の課題をこなしていくのが精一杯な状況が多く、隔々まで指導が行き届いたとはいえない。課題への評価を工夫するなどして、よりきめ細やかな指導を目指したい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必修科目である」が85.7%であった。「関心のある内容である」が14.3%であった。 ②授業の初めに新聞を分析発表する活動を加えて、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によるとほとんどの学生が、全ての項目で「割りにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性: ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。 ②DP、行動目標からみての内容妥当性: 内容的に妥当である。 ③問題なし
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価ではほとんどの学生がすべての項目で④⑤を選択している。図書館の利用は、利用者は8名中わずか1名であった。学習量では、ほとんどの学生が⑤を選択しており、学生の発表中心のゼミだけに、学生が自発的に毎回一定時間自宅学習してくれたのは、喜ばしいことである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	8人中、5人が第一希望で入って、残りが第二希望で入ってきたゼミ構成であったが、8人全員が円満で親しみやすい雰囲気を持続してくれ、学習意欲も高い半期となった。また夏休みには、課題は出さなかったものの、それぞれインターンシップなど、就職につながる活動を頑張った。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。前期の授業では、旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。また、毎週のチャペルの参加や、ミッションデーのレポート、ミッションデー後の教会訪問などを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れるよう体験の機会を促した。 毎回の授業の最後に記入するポートフォリオにおいて、その日の学びの確認を行っている他、チャペルについてもチャペルポートフォリオを作成し、積極的なチャペル参加とメッセージを聞く姿勢を促した。 今後は、さらに建学の精神の土台を日常的に習得していくため、予習・復習の課題を具体的に示していく工夫を行う予定である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては3.7ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は3.6ポイント、他の到達度自己評価も概ね平均3.4であった。トータルの成績の平均値は約75%以上、チャペルの出席率約80%以上、教会訪問の出席率約85%以上とチャペルポートフォリオや教会訪問の感想などから、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学(新約聖書)の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義とディスカッションなどのアクティブラーニングの学びの他、チャペル出席、教会出席、等を評価に組み入れ、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。 自由記述には、「聖書やプリントだけでなく、紙芝居やDVDを使いとてもわかりやすかった」との回答があり、引き続き慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れながら多角的に捉える視点を大切にしたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「チャペルポートフォリオ」を導入して、チャペルと本講義とのリンクを行った。100%の提出があり、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.7ポイントであったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけでなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。 授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオに加え、チャペル出席を促す「チャペルポートフォリオ」を導入し、学生のチャペルへの積極的姿勢を伺う材料とした。これによって、前期のチャペルでの学びの全体像が見えるようになった。今後も、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体45名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが95.6%であって、他の動機は「単位数確保」が13.3%であり、「友人が履修」が2.2%であった。自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」の順に「12, 15, 17」で93.62%であり、否定的回答は「少しそうでない、全くそうでない」の順に「2, 1」で6.38%あった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「5, 10, 23」で80.85%であり、学生の関心ある質問に適切な答えを提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるように、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は90.28点であり、分布的には、90点以上が75.00%、89～80点が10.00%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は85.00%であり、79～70点が5.00%、69～60点が0%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは5.00%で、未達者は6人で10.00%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」の順(以下同)に「8, 12, 21」と「5, 13, 20」でそれぞれ87.23%と80.85%で、否定的回答は「少し、全く」が「4, 2」で12.77%と「8, 1」で19.12%であった。③ 専門分野で＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「5, 8, 24」と「6, 9, 23」で78.72%と80.85%であったのに対し、否定的回答は「5, 5」と「4, 5」で21.28%と19.15%であった。＜意欲＞に関し肯定的回答は「4, 9, 23」で76.60%であり、否定的回答は「5, 5」で21.28%あり、無回答が1人、2.13%であった。④ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答は「5, 8, 24」と「4, 8, 25」でいずれも78.72%であったのに対し、否定的回答は「5, 5」と「6, 4」でいずれも21.28%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「4, 11, 21」で76.60%であったのに対して否定的回答は「7, 4」で23.40%であった。⑥ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「4, 8, 23」で70.02%であったのに対し、否定的回答は「8, 4」で25.53%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、すべてにおいて2桁であった。すなわち、まず、＜知識＞＜理解＞ではそれぞれ12.77%と19.12%であり、さらに、専門分野の学習においては＜判断する力＞では19.15%であったが、他は20%台で、＜検討する力＞＜意欲＞＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞の事項では、すべて21.28%であったし、＜倫理・規範＞に関しては23.40%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞に関しての否定的回答は12.77%と19.12%であり、自己研鑽し社会貢献への姿勢である＜倫理・規範＞の分野では否定的回答が23%台であった。さらに、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞に加え、専門分野の地域社会の課題や協働的協力の＜意欲＞、＜技術＞の習得という専門分野と適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関する否定的回答がいずれも21%台であった。10台に留まったのは、＜判断する力＞で、19.15%であった。③以上から、CPとDPの位置づけから見ると、肯定的回答は、専門分野を含め70%以上であり、すべてにおいて否定的回答は30%未満であり、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ要望としては、レポートの課題が多いので減らしてほしいという声があった。また、レポートの字数も最初から明確にして欲しいという声もあった。検討し、適切に対応したい。② 学習量の評価を見ると、＜1回30分以上の予・復習＞6回を予習が34.04%、復習が19.15%実施し、1回以上で6回未満の学生もそれぞれ25.53%と23.40%で、予・復習のどちらか30分1回以上の学生は51.06%であった。③ 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」(以下同じ)の順に「12, 15, 17」で93.62%で、否定的回答は「少しそうでない、全くそうでない」の順に「2, 1」で6.38%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「4, 15, 19」で80.85%であった。否定的回答は「6, 3」で19.15%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では、肯定的回答は「5, 10, 23」で80.85%であり、否定的回答は「4, 5」で19.15%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「5, 11, 21」と78.72%で、否定的回答が「5, 5」で21.28%であった。④ 今後のことであるが、学生の授業評価によると、肯定的回答が知識・理解につき80%以上、質問と答えの機会も80%以上であったが、しかし、参加の機会が70%台に留まった。これを参考に、1) 今後も理解向上のために、レジュメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 2学科の1年生全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナー I	1	前期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	一年生対象の必修授業である。「(高校までとは異なる)大学での学び方」「レポートの書き方」「プレゼンテーションの仕方」を知識として与えるだけでなく、実際にレポートを書き添削してもらう、プレゼンテーションを行いコメントをもらう、等の活動に取り組ませた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「学習到達度の自己評価」があまり高くなく、自由記述に否定的コメントが散見されたため、「どちらともいえない」と評価するに至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性は確保されていたと思うが、「学習到達度の自己評価」があまり高くない、自由記述に否定的コメントが散見される、という結果になった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	教員間の授業の進め方の違いに、学生は戸惑っていたようである。また、教科書の価格に対する否定的コメントが多い。これらの点に関しては、改善することが必要不可欠である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「学生の満足度が高かった」とは言えない結果となった。教員間の授業の進め方の違いを解消し、指定教科書についても見直す必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容を把握させることに重点を置いた。 受講の動機は「関心があって受講した」と答えた者が6.6% (昨年30%)で、その他は「単位数の確保」と答えた者が23% (昨年70%)、必須科目となったこと、文系学科において健康等に関心が少ないことが考えられる。 健康の情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。 授業計画では予習復習を毎時間小レポート作成させ、前もって配った資料で予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を記憶し、理解している応答が出来るようになっていた。予習をしなかった者が9.5% (63人中6名)、復習をしなかった者が4.7% (3名)と素晴らしい結果となった。各時間の準備性は高まった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点(SD5.9)であり、再試対象は1名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは44名と、問題の難易度から言って高いとは言えなかった。 「目標達成できた」と答えた学生総数は58人(59人中)という高値となり、学生の達成感と満足感が良いと考える。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は57人、自己評価ではまんべんなく達成感を持たすことができた。 英語学科の学生に取り、新鮮な知識として受け取られていると考える。今後、関心と成果のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような方法を取り入れたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には文系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、方法的妥当性は十分あったと思われる。 ③受講動機で内容に関心がある学生が6.6%で、単位獲得目的の学生が23%である。「受講動機」が曖昧な学生が多かったが、「学習到達度の自己評価」は98%が達成できたと考えており、英語学科の学生に適した内容であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、予習を全くしなかった者が20名(59名中)、復習をしなかった者が3名と非常に少なかった。 シラバスを参考にしなかった者が23名(59名中)、授業計画を立てなかった者15名、図書館、データベース、インターネットの無利用者は51名と、予習・復習の時間が 想定より少なかったことは反省点である。次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、授業の要点を事前に提示し、その内容を検討して授業 に参加するよう促したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。授業過程を振り返って見たとき、資料の提示や予習を考えた配布などで改善を図りたい。以上から、 毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。配布物に対する 学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行い、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点(SD9.7)であり、再試対象はいなかった。ほぼ平均点は標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものが49名と予想以上に多かった。目標達成できたと答えた総数は24人(34人中)で高値を示した。 目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は100%、「事象理解の視点を得た」と思う者は100%、「課題検討力」を得たと答えた者100%、「判断力を得た」100%、「学習意欲が得られた」100%、「必要技能を得た」100%、「表現力の向上」100%、「倫理規範獲得」100%、「職業選択の参考」92%と高い自己評価を持たすことができた。 さらに、欠席する者が少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は96%の者が達成したと自己評価している。 意欲関心をより高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度に向けて検討したい					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③受講動機で内容に関心がある学生が13.3%で、単位獲得目的の学生が30%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極 的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。さらに状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康づくりのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持 てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度新設された科目で、各回の担当者が周到に準備をしたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	開講科目としては「人文学全般」をカバーするオムニバス形式の授業であったが、学生達の視点からは、毎回異なるテーマについての話しだったため、要領を得ないまま終わったと感じた部分があるようだ。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当ではあろうが、学生達がそもそも「人文学」を意識して入学したわけではなく、その意義を説明してもすんなりとは理解しにくい面があるように感じる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	数年継続してみないと、どのような改善が可能かはわからないと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	担当した各教員は大きな違和感はなく、それなりに評価できていると思われるが、学生達にとっては何のための授業かが把握できていない部分があるかもしれない。授業改善の部分も必要であろうが、学生達に「学問をする」というレディネスが十分整っていない、という可能性も考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この地球上に生命が誕生して、約38億年が経過し多様な生物の出現と絶滅を経て、現在は数百万種の生物が存在している。その生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き方を知ることが、意義あることだと考えられる。生命の持つ共通性は、近年、より深く追及されその意味が明らかになりつつある。これと並行し、生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されており、生命の共通性と多様性について理解を深めていくとを目的とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は34名中33名であった(英語学科及び観光文化学科合わせて)。平均点は69.0±6.6点であり、標準的なレベル(概ね70点以上)に到達していると考えられる。理想的なレベル(概ね80点以上)に到達した学生が一人もいなかったことは反省すべき点である。 ②学生による授業評価においては、最終講義日が災害による振り替えで土曜日になったこともあり、履修者の半数以上が欠席していたので、正しい評価とは考えられない。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったので、課題を与えて図書館等の利用を促したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「学部共通科目の基礎教養科目」であり、選択科目である。生活するうえで、必要な或いは普遍的な身につけておく必要のある科目と考えているが、高校で習得した生物基礎すら記憶に残っていない学生もいたようである。しかしながら、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	選択科目であるという性格上、基本的には厳しく対応することは避けたが、受講態度は目に余る学生が多く、自分の力不足を痛感させられた。文系学部 of 講義を担当したのが初めてだったということもあり、大変困惑した。経験豊富な先生が行えば、もっと学生にも響く講義が行われるのではないかと期待している。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学部共通科目の基礎教養分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度について定期試験の結果からほとんどの学生が最低限のレベルで取り組んだものと判断できることから、概ね標準的なレベルをクリアできたものとする。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。ただ、こちらから問いかけても無反応或いは無視するといった反応もあり、お互いに信頼関係が築けなかったことは深く反省している。次年度、ご担当いただける先生に期待したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	事前準備としての事前クイズを実施し、予習の時間を確保すると同時に事後学習として、授業の最後にグループワークを実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の結果から、不可となった学生が一定数いた。また、グループワークの内容からも、理解が不十分と思われる内容が多く見られたため。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年生科目であり、単位数確保を目的とした履修者も多く、履修者側に位置づけが十分に伝わっていなかった可能性がある。そのため、内容の良しあしとは別に、授業の目的がうまく伝わっていなかった可能性があり改善を考えたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	グループワークについて、評価の公平性に対する疑問が一定数あったため、改善を考えたい(他の学生に任せきりで何もしない学生がそれなりにいたようだ)。また、事前クイズについては、採点の対象外としていたが、事前クイズへの回答も成績評価に加えることで、予習の学習量を増やしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	開講初年度ということで、学生も私も手探りの部分があったが、数学という科目の特性もあり、簡単に感じる目標レベルまで楽に到達できる人と、難しく感じそうでない人との差が大きかったように思える。この部分の調整は難しいが、レベルの高い学生への追加課題などで対応することを考えたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であり、英語学科のほか、看護学科および福祉学科が一つのクラスとして受講した。本年度に限り、本科目を私が担当した。英語学科の受講生は一人、受講動機は、「関心のある内容である」であった。本人は、「高校時代から化学は得意ではないが、好きであった」と話していた。講義では、英語学科や福祉学科のように、将来、専門分野で特に化学を必要としない学生向けに原子や分子の概念と構造、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を、一般教養レベルで解説した。具体的には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元などについて、最低限の定義、理論および法則を、化学初学者の大学生向けとして、入門編的に解説した。 ②講義は、スライド中心に進めている。教科書は指定しなかった。その代わりに、配付資料として、解説書を一から作成した。 ③講義に用いるスライドは、栄養学科向けのを、大幅に簡単にして用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	一名の受講者の最終成績は79点であった。文系の英語学科の学生として、十分な得点と考えられる。すべての講義に皆勤で出席し、受講態度は、極めて熱心で、高評価に値するものであった。講義後にもわからない点を積極的に質問に来るなど、修学意欲を強く感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は高く、内容的には妥当と考える。 全体としては、妥当な内容であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度は、良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は、非常に高い意欲を程度感じさせるものであった。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」を考慮して、生活や身の回りの事例をできるだけ挙げて、講義を進めるようにした。 本年度のみの担当であるので、今後の改善については、コメントを控える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況は、良好と考える。本年度のみの担当であるので、次年度については、コメントを控える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の50%を除いて、③「関心のある内容である」は36.4%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においても少し考慮していく必要があると考える。 3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場を増やしていくことができるように工夫したい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「82.1点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解、(DP-3)の意欲関心、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.8点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.0点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、值的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に 利用できるように促していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出して学期後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学科と観光文化学科で合同の選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が33.3%、「単位数を確保する」が66.7%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②著作権、SNSの利用、スマートフォン利用およびメール等の文書作成の理解度を測るため小テストを実施した。 ③PowerPointでのプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均値は82.7であり標準偏差は8.0であった。成績は課題(50%)、小テスト(20%)、プレゼンテーション(30%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているので良しとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.2～3.6と学科に比し低い、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.6、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.8と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。 ②学生の意見として、「小テスト範囲が曖昧だった」とのいうものがあった。試験範囲をわかりやすく説明するよう改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間が足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第8回までは基礎技術の習得を行い、第9回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。 情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。 また、後半のグループワークでは、創造性やコミュニケーション能力の育成といったグループワーク一般の目的に加え、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。 学習量の評価については、テキストによる予習を推奨したが、授業アンケートの結果から実際の予習回数は低率であった。予習とリンクした課題を設ける等の改善策を検討したい。授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「必要ない」という記述が多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館利用で、図書や学術データベースの利用が低率であったことから、これらの利用について、明示的に指示した課題等を設定する必要があった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。授業アンケートの受講動機において、将来への展望に欠ける回答が多いため、受講動機に対してより訴求性のあるシラバスに改善し、授業内容そのものも、より学習動機を理解しやすいものとしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。 以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進めた。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践英語音声学 I	1	前期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学科の必修科目である。「音声学について始めて学ぶ」という学生がほとんどであるため、英語の発音やリズムに関する知識全般を丁寧に指導するよう心がけた。英語の発音やリズムに対する知識のみならず、実際に音声を開いたり発したりしながら、実際の英語コミュニケーションで活用できる知識の体得を目指して指導を行った。特に、既に授業で学習した音声については、各自で復習を常に行うよう指導した。当講義で得た音声やリズムに関する知識を、知識として知るだけでなく、今後の授業や実際の英会話等で大いに活用していくことを意識するよう常に伝えるよう心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	シラバスで予定していた学習内容については、予定通り全てを講義することができた。受講生による授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」は4.4と概ね良好である。また、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.3となっており、毎回の授業終了時にコメントシートを活用し、次回の授業にて学生のコメントや質問に対するフィードバックを毎回行ったことが学生の理解やサポートにつながったのではないと思われる。学生の到達度自己評価によると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.3と概ね良好である。一方で、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.6と低い傾向にあるため、今後は、音声やリズム指導を行いつつも、思考力や考える力を深めることができるような授業実践をさらに工夫したいと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語の音声やリズムの知識は、英語学習全般に関わる基礎的な学習内容であるため、1年生前期に当授業を設置していることは実に理にかなっており、理想的である。学生達が、英語の音声を通じたコミュニケーション能力をさらに伸ばすためにも、音声に関する土台を築いておくことは大変重要である。授業終了後も、学生たち自身の継続的努力によって、日常的に音声面での発話訓練が実践されることが期待されている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては、丁寧でわかりやすい説明を常に心がけた。学生が1年の前期で落ちこぼれることなく、音声面に関して自信を持つことができるよう、楽しみながら学び、励ましながら自信を深めさせる指導を行った。なかでも、授業中に声を出して練習することと、復習を多く行うよう指導し、概ね学生らは全体的に意欲的に授業に参加しており、声も良く出ているように思う。まだまだ自信を持って発音できない学生も見受けられることから、今後の英語関連授業や後期の授業等でさらに練習を重ねてほしいと考えている。予習・復習に関しては、約4分の1の学生が十分な時間の確保が出来ていないことから、今後は、授業中以外の課題の取り組み方についてもさらに詳しく指導を行っていきたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業の進度については、シラバスで予定されていた全ての内容を予定通りに進めることができた。学生の参加状況や理解度も概ね良好である。しかし、学生の予習・復習状況は十分とはいえないため、今後は、授業以外の時間帯における取り組みの重要性について、今以上に丁寧な指導を行い、チェックを行う工夫をしたいと考えている。また、音声やリズムに関する基本的な事項を全体的に網羅することができたが、一方で、思考力や多様な視点を身につけるという点では不十分であったため、今後はこれらの能力も伸長できるような授業内容の工夫を検討したいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジション I	1	前期	必修	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高等学校までの履修科目や習熟の状況については、学生ごとに大きな隔りがあるため、既習事項と思われるものについてもわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。 ② 例年、受講動機については、「必修科目である」という項目以外に回答した学生は少数しかおらず、今回も同様であった。できるだけ、この科目で学修することが、今後の専門科目を学修する上での基礎となることを折に触れ、具体例を挙げながら説明した。 ③ 予習の習慣がつくように、予習としてすべきことを明確に指示し、毎回予習してきたことについて確認する機会を設けた。 ④ 学生が復習をし、自分の学修の成果を確認できるように、毎時間前時の授業についての小テストを実施した。 ⑤ 小テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回解説するようにし、学生に注意を促した。 ⑥ 毎回課題の確認をし、不十分な場合は個別に指導をした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の評価の平均値は78.0点で、再試対象者は61名中6名であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多いたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、多くの学生が「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は3.4から4.0で、中央値は3.0から4.0であった。一方で学生の学習量の確保のために、さまざまな工夫をしたが、30分程度以上の準備をしたのが0回だと回答した学生が58名中3名、30分程度以上の復習をしたのが0回だと回答した学生が58名中8名いた。課題へのアドバイスの仕方を今年度は若干変えたことが功を奏したのか、0回だと回答する学生の割合が減少した。課題の出し方など、次年度に向けて検討したい。授業の記録については、全員がノートなどに毎時間記入していることを確認しているが、多くの学生が記録をあまりしていないような回答をしていた。授業中の事実と大きく異なり、昨年も同様の傾向がみられたので、アンケート実施前にも説明したのだが、学生が設問を正しく理解できていないのではないかと懸念している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ② DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、1名が「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について「少しそうでないと思う」と回答しているもののほとんどの学生は「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、ほぼ目標は達成できたのではないかと思います。しかしながら、毎回予習や復習が必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたにもかかわらず、30分以上の予習や復習の時間をとらなかったもののべ11名おり、全員に十分な学修時間の確保を徹底させることができなかったといえるが、昨年度より大幅に減少している。質問を受け付ける時間は、毎回十分にとっており、全体で質問しにくい学生がいることも考えて、机間巡視をして個別に対応できるようにしている。質問を受け付けそれに答える機会が作られていたかという問いに対して、「少しそうではない」と回答した学生は質問の意味を取り違えていたのでないと思えば、口頭での質問がしにくかったのかもしれない。メール等でもいつでも質問を受け付けることを授業で2、3度伝えたが、もっと頻繁に伝えるか、シラバスに明記したほうがよかったのかもしれない。今後検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が数名いたことから、全員に学習の習慣ができたとはいえない。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、課題を提出させたりするなど、学生が学習しやすいように、また一定の学習量を確保させるよう工夫し、昨年度より改善されているが、全員に徹底できていないことから、予習や復習の状況の確認をより徹底するなどして、さらに改善していきたい。授業中の解説や説明がわかりやすかったと回答した学生が複数名いたが、一方で簡単すぎて眠くなりそうだったと回答している学生が1名いた。簡単すぎると感じる部分が長くなり過ぎないように工夫したいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習 I	1	前期	必修	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英検準2級、あるいは英検2級に合格できるように、実践問題の積み重ねに重点を置いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者60名中、すでに英検2級に合格していたものが13名 (→これらの学生は英検準1級の勉強を進めた)、講義期間中に初めて英検準2級、あるいは英検2級に合格した学生が19名であり、半分以上の学生が目標を達成した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価(2)項目では平均値が3.6であった。
---	----------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「購入した教科書の答えが欲しかった」という意見についての回答。授業に出 ていれば、答えは与えられるし、授業に出なかったところでは、出席者に 聞くなどの工夫をしてください。授業を受けるか否かは、本人の自由意志 です。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「英単語を覚えた」等、単語の習得に関する自由意見が目立った。必修科目 であり、60人という大人数なので、きめ細やかな指導をするには限界があ ったが、それでも、半数以上の学生が目標を達成したのは、今までにない 成果である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅠ	1	前期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For my classes, we used the textbook “iTalk” (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students were great and did very well across the board.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	They all worked very hard and had very positive attitudes towards learning so all targets were achieved.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	In some areas the students could be challenged a bit more. Having that flexibility in the program is nice.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	No particular problems to speak of. A really great class that took advantage of what the course had to offer.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーション I	1	前期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "iTalk" (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in two e-learning programmes: CHleru, for developing general skills, and our Moodle website for building general skills in writing and reading. We also had 4 Winchester students in the classroom as assistant language teachers.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 70% to 92% with an average of 83.39% In CHleru e-Learning, all students except 2 reached their monthly targets of 300 miles. As usual, we also collaborated with the Extensive Reading course, working on vocabulary building together. For this we made use of the Quizlet app, and all students seem to be progressing well.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. Aside from one student (who never really started) there were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students in class 1A did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross. This will continue to be our focus in the coming years.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Our goals for the next academic year include assessing the current textbooks for both courses and deciding if it is time for a change. As our 1st-year courses are no longer linked to the courses taught in other departments, we have some autonomy in our choice.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Our assessment system improved even more this year, and we were able to offer students real-time transparent information on their progress. We need to back this up with strategies students can use to improve their grades after reviewing their own assessment progress.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Michael Jordan Berg

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーション I	1	前期	必修	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	We followed the textbook fairly closely. Students were occasionally given homework but not usually. At the end of the year they did a presentation which was a play based on the units in the textbook. They wrote and memorized it.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	Yes	yes.		yes.	yes.	yes.
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Grades were given based on participation, tests, the final exam and effort exerted. Students seemed generally satisfied with the class, and it seemed neither too difficult nor too easy so I suppose I will continue to administer it the same way next year. There was no internet outside learning.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The class was communicative with plenty of opportunities for free discussion however students' levels were such that much care and structure had to be provided. Motivation included providing a fun atmosphere and positive feedback generally.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	Keeping students on task was perhaps the biggest challenge as some would finish tasks early and then – having nothing to do – interfere with the slower students completion of said assignment. A good way to proceed then would be to seat students next to other students of comparable capability perhaps.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Maintaining a positive atmosphere and keeping the zone of proximal development level ideal is key in these classes but generally the students enjoyed and were challenged by the class, and so I will continue to do it how I have so far frankly. I should perhaps focus on my handwriting on the board however as it can get messy.
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディング I	1	前期	必修	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	I only taught this class for one semester to cover for a part-time teacher who had to take a semester off to fit the school rules. Because of that, I followed the system the usual teacher had set up so as not to disrupt his system – which has worked well to date. Students spent a lot of time reading and were then required to take tests using our Moodle Reader system.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students who applied themselves to their reading – particularly outside of class – achieved good results and were able to build vocabulary and comprehension as well as increase reading speed. For those students who couldn't (or wouldn't) do the required reading, there was a corresponding drop in achievement.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As noted above, DP1 showed some weakness as some students were unable to keep up with the readings and homework. This also led to the lower rating for DP5. However, this did not apply to every student, and most other areas were ok.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	This is not my course, so I'm not in a position to make any changes. However, I have recommended to the teacher that he implement more skill-building activities for those students who are having problems in classes.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Assessment is strongly built around performance and task-completion, and the results are made known to the students every week. This is an open and transparent system that works well.
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディア英語 I	1	前期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This is the first media class that the students experience, and most of the course is taken up with working on the CHieru e-learning system. Each week, they were given goals to achieve and specific items to work on. There was also regular testing using TOEIC and TOEFL style mini-tests. In addition, we worked on a number of other online activities such as vocabulary learning and listening skills.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Within the target of "600 Chieru Miles" every month, most students achieved this or came close to it. There were no big problems with work being completed or attendance being unacceptable – apart from 2 students who had the same problems in all classes.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All DP areas were achieved. Students worked consistently well in this class, and what couldn't be completed in class was completed outside class.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	I don't foresee any large-scale changes to this class for next year as its primary goal is to get students accustomed to using the CHleru system on a regular basis. This was achieved. I will be offering more chances to complete other supplementary material and activities to broaden the scope of the class, plus will be reformatting the class sets of learning modules in order to get a more balanced group of materials to focus on in each class.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Nothing in particular.
-------------------------------	-------------------------------